

ロヒンギャ難民 緊急連続シンポジウム

第1回：2017年12月5日（火）18:30～20:30

第2回：2017年12月8日（金）18:30～20:30（両日とも受付開始 18:00）

会場：聖心グローバルプラザ/聖心女子大学4号館 3階 ブリット記念ホール（東京都渋谷区広尾4-2-24）

★お申し込み多数につき、会場を変更いたしました★

【第1回】

ロヒンギャ問題の現状・背景を多角的に見直す

「ビルマ(ミャンマー)・仏教徒の視点からみたロヒンギャの人々」
渡邊彰悟（弁護士）

「 Bangladesh の現状～難民及びジュマの人々の現状と問題」
下澤嶽（静岡芸術文化大学教授）

「現場の生活状況と赤十字による人道支援の状況」
斎藤之弥（日本赤十字社国際部参事）

「ロヒンギャ問題を巡る地政学：ARSAを含めて」

日下部尚徳（東京外国語大学講師）

モデレーター：藤崎文子（シャプラニール事務局次長）



写真提供：ジュマ・ネット



写真提供：シャプラニール＝市民による海外協力の会

【第二回】（同時通訳あり）

ロヒンギャの人々の今後の可能性を考える

「ロヒンギャ危機における今後のビジョン」

ダーク・ヘバカー（UNHCR駐日事務所代表）

「 Bangladesh での定住の可能性と課題：ビハール難民の事例から」

大橋正明（聖心女子大学グローバル共生研究所長）

「無国籍という問題」

加藤丈太郎（早稲田大学大学院博士課程在籍）

「ロヒンギャ問題をビルマ（ミャンマー）側から見ると～排他的ナショナリズムの構造と実態」

根本敬（上智大学総合グローバル学部教授）

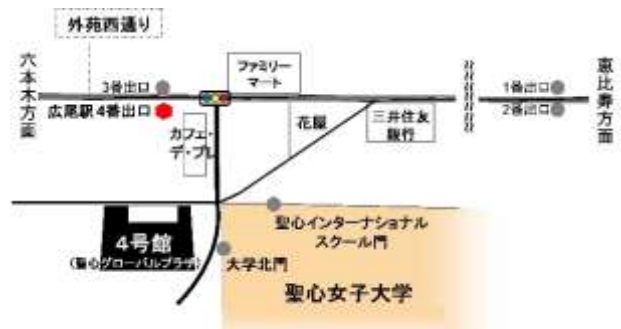
モデレーター：藤崎文子（シャプラニール事務局次長）

難民を生み出すに至る錯綜した状況の背景や構造を見据えつつ、ロヒンギャの人々の現状と今後の見通しを、多角的な視点から検討するシンポジウムです。多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

参加無料

要・事前申し込み

<https://goo.gl/forms/0dCrEhOFNVMHx1bF3>



主催：聖心女子大学グローバル共生研究所

お問い合わせ：jimu-kyosei@u-sacred-heart.ac.jp